

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】

都道府県名	山 口 県
-------	-------

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	山口市立平川小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	5	4	4	4	4	2	27	35
児童数	133	168	158	159	149	160	5	931	

研究の概要

1. 研究主題

<p>学びのよろこびを味わう子どもの育成 ～算数科における少人数指導を中心に～</p>
---

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4年生・算数 児童の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。 1学級あたりの児童数が多いため。</li> <li>・ 6年生・算数 これまでの学習の習熟の状況について、個々の児童の間にはかなりの差があり、少人数指導による効果が期待できると考えられるため。 1学級あたりの児童数が多いため。</li> </ul>
---

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 学びのよろこびを味わう子どもの育成 - 算数科における少人数指導を中心に -</p> <p>研究の見通し 「学びのよろこびを味わう子ども」について、 子ども自身が、学習における内的変容</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>分かる・できる・達成する（変化） うまくなる・自信をもつ（強化） よりよくなる（深化）</td> <td>を自覚することととらえ、</td> </tr> </table> <table border="1" style="margin-left: 20px; width: 100%;"> <tr> <td>・ 学習する事柄（教材）と出会う場面</td> <td>（個）</td> </tr> <tr> <td>・ 課題を追求する場面</td> <td>（個 集団）</td> </tr> <tr> <td>・ 学習を振り返る場面</td> <td>（集団 個）</td> </tr> </table> <p>それぞれの場面における、児童の「学び」の変容を見取っていく。</p> <p>15年度は特に、</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>個に応じた指導方法や指導体制の工夫改善</td> </tr> </table> <p>に重点を置いて研究していく。</p>	分かる・できる・達成する（変化） うまくなる・自信をもつ（強化） よりよくなる（深化）	を自覚することととらえ、	・ 学習する事柄（教材）と出会う場面	（個）	・ 課題を追求する場面	（個 集団）	・ 学習を振り返る場面	（集団 個）	個に応じた指導方法や指導体制の工夫改善
分かる・できる・達成する（変化） うまくなる・自信をもつ（強化） よりよくなる（深化）	を自覚することととらえ、									
・ 学習する事柄（教材）と出会う場面	（個）									
・ 課題を追求する場面	（個 集団）									
・ 学習を振り返る場面	（集団 個）									
個に応じた指導方法や指導体制の工夫改善										

- 研究の内容・方法
- ・児童の学力の実態調査  
算数学力検査（教研式）の実施
  - ・先進校視察  
山口県防府市立華城小学校  
広島県東広島市立高美が丘小学校  
島根県出雲市立大津小学校  
兵庫県芦屋市立朝日が丘小学校
  - ・指導者を招聘しての研修会  
「少人数指導について」  
山口県小郡町立小郡小学校 教諭 福永 敬 先生  
「教科と総合学習でつくる『質の高い生活の場』としての学校」  
愛知教育大学 久野 弘幸 先生  
「学力について」  
福岡教育大学 寺尾 慎一 先生  
「算数における評価について」  
山口大学教育学部附属山口小学校 教官 宇田川 浩樹 先生
  - ・各学年の授業研究会（計6回）  
第3学年 算数「角の大きさ」  
第2学年 算数「三角形と四角形」  
第1学年 算数「ながさくらべ」  
第6学年 算数「分数のかけ算」  
指導者 防府教育事務所 指導主事 多賀谷 克己 先生  
第5学年 算数「三角形の面積」  
第4学年 算数「面積」  
指導者 山口大学教育学部附属山口小学校  
教官 宇田川 浩樹 先生
  - ・単元の指導計画及び評価規準の作成
  - ・「研究のまとめ」の作成

平成  
16  
年度

テーマ 学びのよろこびを味わう子どもの育成（2年次）

研究の見通し

研究のテーマについてのとらえ方は、15年度の考え方を引き続き発展させていく。

16年度は更に、

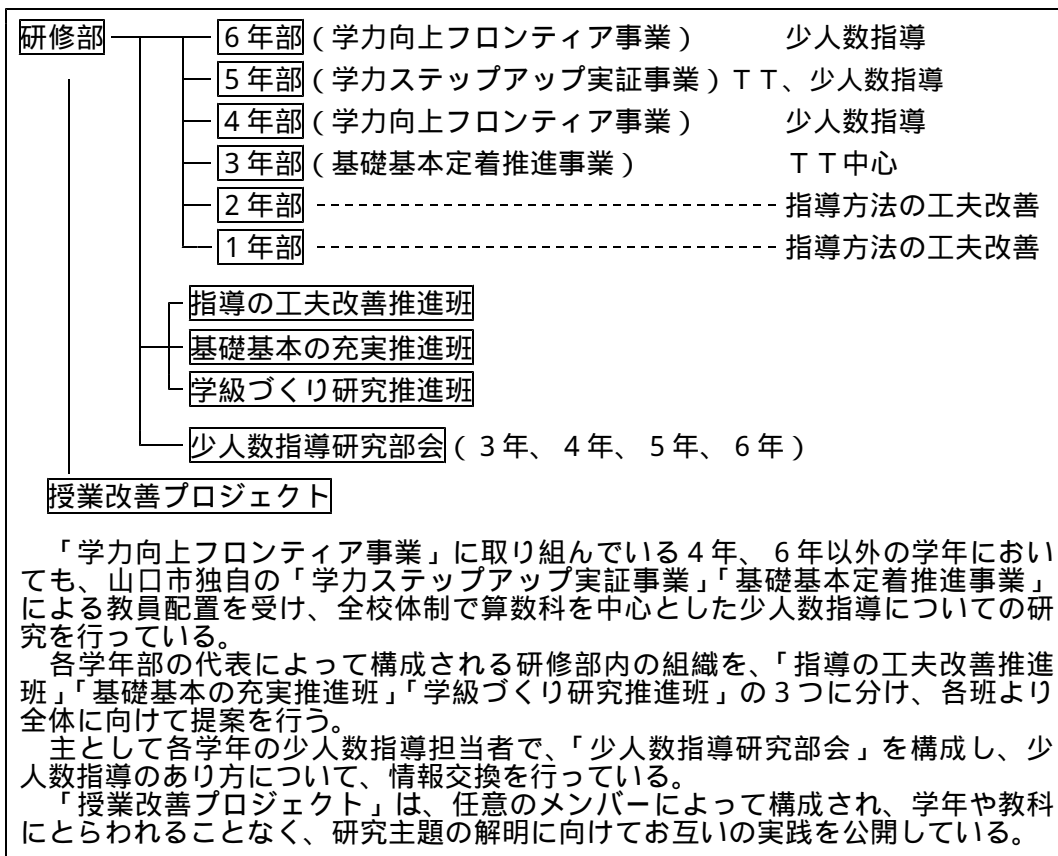
- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)児童の学力の評価を生かした指導の改善</li> <li>(2)児童による授業評価を生かした授業改善</li> </ul> |
|--|

についての研究を深めていく。

研究の内容・方法

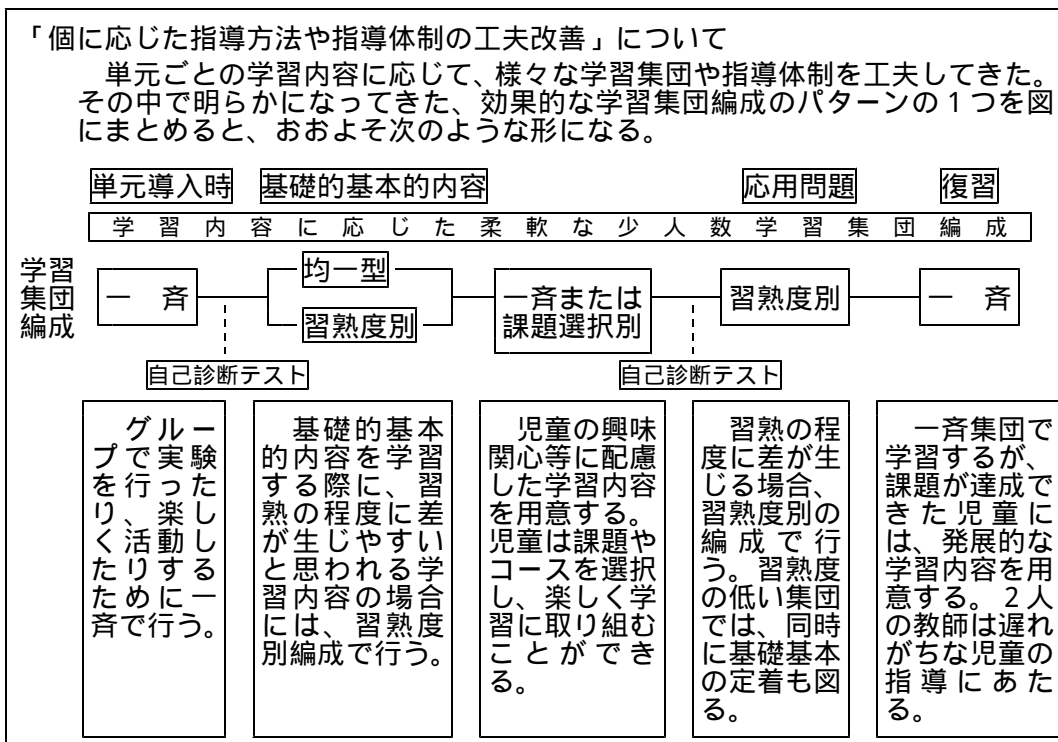
- ・研究組織の見直し、改善  
15年度、研修部員のみで組織されていた、「指導の工夫改善推進班」等の班について、全教職員がいずれかの班に参画する。
- ・児童の学力の実態調査及び昨年度との比較
- ・先進校視察
- ・指導者を招聘しての研修会
- ・授業研究会の開催
- ・指導計画及び評価規準の見直し
- ・近隣のフロンティア校との交流、情報交換
- ・研究集録の作成
- ・研究成果の普及方法の工夫

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

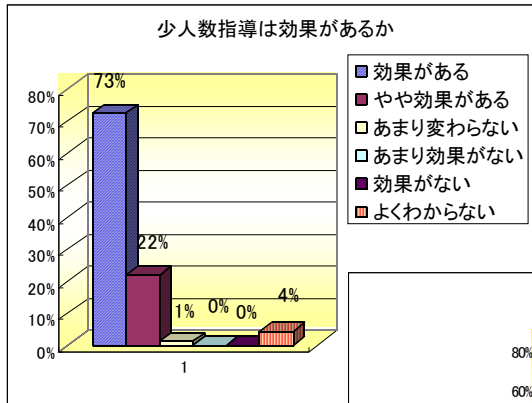
1. 研究成果



習熟度別コースの学習に入る前に、「自己診断テスト」を実施することで、児童は、より自分に合ったコースを選択することができるようになった。同時に、それぞれのコース内での習熟の程度の差が小さくなることによって、そのコースに合った授業の進め方を工夫することができた。

習熟度別の学習集団を編成する場合にも、学習課題、学習内容は同一にするよう心がけた。これは、児童間に「進んだコース」「遅いコース」というような意識をもたせないためと、単元の学習中のコース変更を可能にするためである。

( 保護者対象 )

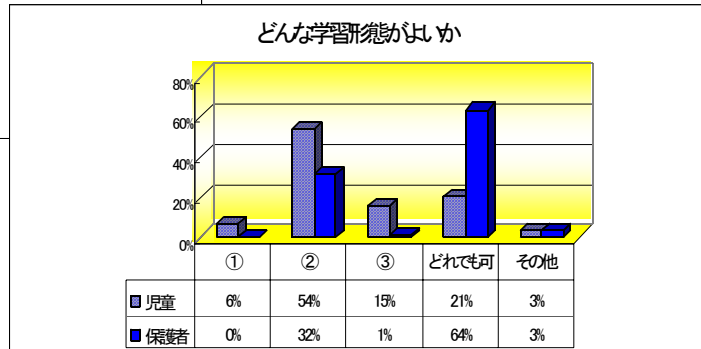


2学期末に、6年生の児童及び保護者を対象に行ったアンケートの結果では、少人数指導の意義が保護者の間にも浸透していることが伺える。

学習形態については、保護者は多様な形態を取り入れることを希望しているが、児童はより習熟度別の編成のよさを感じていることがわかる。

( 児童・保護者対象 )

一斉型  
習熟度別編成  
均一型編成



授業後の「ふりかえりカード」などを分析してみると、習熟度の低い方のコースで、学習意欲の向上が見られた児童が非常に多い。「算数がきらいだったけど、好きになってきた。」「自分のペースでゆっくり学習することができてよかった。」など、肯定的な意見が多い。自分の考えを安心して表現できる場が与えられたことで、自信が付き学習に対する満足感を得ることができたことは、少人数指導による大きな効果だと考える。

2. 今後の課題

個に応じた指導方法や指導体制を工夫するために、効果的な学習集団の編成を探ってきた。その結果、今年度においては、本校なりの学習集団編成のパターンを確立することができた。更にきめ細かく個に応じるために、複数学級を解体した習熟度別編成の可能性も検討したが、本校のような大規模校では、結果的に一つの集団の人数が増えてしまうため、十分な効果が期待できなかった。

この点については、引き続き来年度の課題として取り組んでいきたい。より発展的な学習を必要としている児童、2つの習熟度別学習集団の中間に位置している児童など、様々な児童に応じる手立てを、学習集団編成以外の面からも考えていきたい。

これまで、学習内容に応じて、柔軟な学習集団編成を行ってきたが、どの単元においても必ず一斉型（もしくはTT）による学習を行う場面がある。それは多くの場合、単元の導入であり、児童の学習への意欲付けに大切な部分である。その後の少人数指導をより効果的なものにするためにも、この一斉型（TT）の時間における複数教員の協力的な指導体制のあり方も更に研究していく必要がある。

また来年度は、評価について、児童の自己評価能力の育成、児童による授業評価を生かした授業改善を含めて研究を深めていきたい。

## 学力等把握のための学校としての取組

- ・ 教研式算数学力テスト（6月4日実施）  
児童の算数科における学習内容の習熟状況を把握するため。
- ・ 単元の学習前（途中）の学力診断テスト  
各単元の学習に必要な既習内容の習熟状況を把握し、単元の指導計画作成の参考にするため。単元の学習の前（途中）に、小テストの形で実施。少人数指導における、児童自身によるコース選択の判断材料としても用いる。
- ・ 単元終了時の「ふりかえりカード」  
単元を通しての個々の児童の「学び」の変容を把握するため、各単元終了時に実施。また、児童からの意見を基に、指導方法を改善していくため。
- ・ 学力診断テスト（6年生 1月中旬実施）  
1年間の各単元の学習内容について、習熟の程度を把握し、「6年のまとめ」の単元の学習において個々人の習熟の程度に応じたきめ細やかな指導を行うため。
- ・ 算数についての児童への意識調査（年度始め、1, 2学期末、年度末）  
アンケート形式で実施。児童の算数の学習についての意識の変容を把握するため。
- ・ 少人数指導についてのアンケート（2学期末実施）  
少人数指導についての意識を把握するために、保護者・児童を対象にアンケート形式で実施。集計の結果を「少人数だより」で保護者に配布。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 防府管内学力向上フロンティア事業地区協議会での研究発表。  
1月30日（金） 防府総合庁舎  
対象 防府管内少人数指導加配校関係者  
防府管内小・中学校関係者  
各フロンティアスクール関係者、保護者や地域住民の代表者  
当該市町村教育委員会関係者
- ・ 山口県教育委員会「指導事例集 - 確かな学力の向上をめざして - 」への投稿。
- ・ 研究成果普及のためのホームページ作成。
- ・ 「研究のまとめ」の作成（冊子及びCD-ROM）。管内小中学校、県内の各フロンティアスクールへ配布。
- ・ 校内授業研究会（10月、11月）の、管内フロンティアスクールへの参加呼びかけ。
- ・ 参観日での保護者への授業公開及び少人数指導についての説明。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校
- 【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上
- 【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 一部教科担任制  その他
- 【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無